

平成22年4月2日

各 位

会社名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号: 4572)
問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
(TEL. 078-302-7075)

「保健医療分野における基礎研究推進事業」新規研究プロジェクト採択等に関するお知らせ

当社と国立がんセンターとの共同研究（以下、「国立がんセンターとの共同研究」という）が、この度、独立行政法人 医薬基盤研究所（以下、「基盤研」という）の運営する「保健医療分野における基礎研究推進事業」の平成22年度新規研究プロジェクトとして採択されましたのでお知らせいたします。また、これに伴い、独立行政法人 科学技術振興機構（以下、「JST」という）の運営する「研究成果最適展開支援事業「A-STEP」（以下、「A-STEP」という）」に係る委託研究開発契約を平成21年度で終了することとなりましたので併せてお知らせいたします。

1. 今回の研究支援制度の採択等について

この度、国立がんセンターとの共同研究が、基盤研より画期的医薬品を目指した研究として独創性・新規性等の観点から評価を受け、「保健医療分野における基礎研究推進事業」の平成22年度新規研究プロジェクト（画期的医薬品・医療機器開発分野、画期的医薬品・医療機器の開発を目指した研究）として採択されました。これによりまして、当社は国立がんセンターとの共同研究において、基盤研の研究支援制度を活用した積極的な研究投資を行うことが可能となることから、当該共同研究の更なる進展が期待できるものと考えております。今後も国立がんセンターとの連携を深め、早期の新薬創製に向け研究に取り組んでまいります。

なお、国立がんセンターとの共同研究は、昨年、JSTの「A-STEP」に採択され（平成21年12月2日公表「研究成果最適展開支援事業「A-STEP」採択に関するお知らせ」参照）、JSTより支援を受けておりましたが、同一の研究課題について基盤研及びJSTの両支援制度からの競争的資金を得ることができない制度上の制約から、「A-STEP」に係る委託研究開発契約を平成21年度で終了することとなりました。

2. 基盤研及びJSTによる研究支援制度の概要について

「保健医療分野における基礎研究推進事業」は、基盤研が国民の健康の保持増進に役立つ画期的な医薬品や医療機器の開発につながる可能性の高い基礎的な研究を、国立試験研究機関や大学等と研究契約を締結して実施し、その結果を広く普及する事業であり、本事業において新規採択される研究プロジェクトは、外部の専門家等による審査を経て決定されます。平成22年度の研究プロジェクトの公募においては、230の研究プロジェクトから最終的に21の研究プロジェクトの採択が決定されました。なお、本事業は採択された研究プロジェクトに対して、最長5年間に亘り毎年1億円（上限（予定））が助成される研究支援制度です。

○「保健医療分野における基礎研究推進事業 平成22年度新規採択研究プロジェクト21課題」の詳細については下記URLをご参照ください。

<http://www.nibio.go.jp/cgi-bin/new/view.cgi?no=876>

○基盤研の詳細については、ホームページ（下記URL）をご参照ください。

<http://www.nibio.go.jp/index.shtml>

他方、JST の運営する「A-STEP」は、大学・公的研究機関等で生まれた研究成果をもとに実用化を目指すための幅広い研究開発フェーズを対象とし、先般、国立がんセンターとの共同研究が採択課題として決定された本格研究開発ステージ（シーズ育成タイプ）は、マッチングファンド形式により、研究開発実施機関に対して研究開発費が、最長4年間に亘り総額2億円（上限）が助成される研究支援制度です。

3. 今後の業績に与える影響について

本件による今後の業績に与える影響については、本件に係る基盤研との委託研究契約締結後、影響額を算定の上、公表させていただきます。

以 上

(ご参考)

国立がんセンターの概要

(1) 名 称	国立がんセンター
(2) 代 表 者	総長 廣橋説雄
(3) 所 在 地	東京都中央区築地 5-1-1
(4) 設 立 年 月 日	昭和 37 年 2 月 1 日
(5) 当社との関係	人的・資金的・取引関係は一切ありません。

カルナバイオサイエンスの概要

(1) 名 称	カルナバイオサイエンス株式会社
(2) 代 表 者	代表取締役社長 吉野公一郎
(3) 所 在 地	神戸市中央区港島南町一丁目 5 番 5 号 BMA 3F
(4) 設 立 年 月 日	平成 15 年 4 月 10 日
(5) 事 業 内 容	キナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を用いた製品・サービスの販売（創薬支援）及び医薬品の研究・開発（創薬）

国立がんセンターとの共同研究の概要

本共同研究の対象疾患であります大腸ガンは、生活習慣の欧米化が進んでいるため、その患者数が近年増加傾向にあり、日本国内だけでも毎年約 4 万人が死亡しており、新たな治療薬の開発が望まれています。大腸ガン患者の 8 割以上は、Wnt シグナルと呼ばれる経路に存在する、APC (adenomatous polyposis coli) ガン抑制遺伝子に変異があることが知られています。この APC 遺伝子の変異によって、下流の β -カテニンの分解に異常が生じ、その結果、蓄積した β -カテニンが遺伝子の転写活性化をもたらすことでガンを引き起こすと考えられています。これまで世界中の研究機関が Wnt シグナル伝達経路を遮断する薬の開発を目指してきましたが、有効な標的分子を見出すことができませんでした。本共同研究で標的としている TNIK は、国立がんセンター研究所の山田先生らが、プロテオミクスと呼ばれる技術を駆使して発見した Wnt シグナル伝達経路に重要な役割を果たしているキナーゼであり、現在、当社の優れたキナーゼ創薬技術を用いて日本発の画期的な大腸ガン治療薬の開発に取り組んでいます。

【本件に関する問い合わせ先】

カルナバイオサイエンス株式会社
経営企画部 IR担当
TEL : 078-302-7075